

○課題文について

課題文は、井庭崇『創造社会—ジェネレーターが求められる社会とは—』（市川力・井庭崇『ジェネレーター—学びと活動の生成—』学事出版、2022年 所収）の一部である。出題箇所では、現在の「情報化社会」の次に来ると著者が主張している「創造社会」がどのようなものなのか、創造社会において社会や人々の暮らしはどのように変化するのか、その社会において人々はどのように生きるべきなのかについて述べられている。

○設問1 課題文中で述べられている「創造社会」とはどのような社会のことか。200字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。課題文中に散在する「創造社会」についての記述を集約し、その全体像を過不足なく記述できていたものに対して、高い評価を与えた。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「創造社会」の一面のみに着目して解答しているものや、文章構成力に欠ける解答が散見された。

○設問2 筆者は傍線部のように「創造社会では、一人ひとりが創造性を発揮することが必要だ」と主張しています。あなたにとって「創造性を発揮する」とはどのようなことですか。課題文を踏まえながら自分の体験や見聞を交えて800字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げ、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「創造性を発揮する」行為について、自身の体験や見聞を事例としながら、自らの考えを論理的・説得的に述べたものに対して、高い評価を与えた。

【講評】

多くの解答では、自分の体験や見聞を挙げながら「創造性を発揮する」行為について適切に述べられていたが、課題文における意味を踏まえずに独自に「創造性」を解釈して述べている解答や自分の考えを十分に展開できていない解答が散見された。